とうきょう さんぱい

第33巻第12号　通巻第319号
319
平成29年3月10日発行

「団体課題別人材力支援事業」が始動
女性部が日本工学院八王子専門学校にて「出前講座」開く

安全衛生研修会　２８年度第３回『産廃処理業における労働災害防止対策』

東京都廃棄物審議会　災害廃棄物部会（第３回）を傍聴して

一般社団法人 東京都産業廃棄物協会

有明興業は、
未来のエネルギーを創造します。
Recycle Quality
リサイクルを考える時代から、
リサイクルの品質を選ぶ未来へ。
廃棄物から地球にやさしい燃料をつくっています。
これらは今、次世代エネルギーとして、製造工場や発電施設などで活用されています。
オフィス工場 → プラスチック 紙 繊維 木 金属
〈サーマルリサイクル〉RPF(固形燃料)・フラフ燃料 → 各種企業、発電会社など
●CO_2削減を通じて、地球温暖化を抑制します。
●石油や石炭の代替燃料となり、エネルギー資源の有効活用につながります。
〈マテリアルリサイクル〉再資源化 → 各種メーカー
●限りある資源の有効活用につながります。
陸送に比べてCO_2排出量の少ない船舶輸送を推し進めています。
東京港に面する若洲工場とリサイクルポートでは、2,000トン級の船舶が接岸できるプライベートバースを活用し、
全国各地から廃棄物を受け入れ、製品出荷体制を整えています。
リサイクルポート
第2バース
第1バース

2014年度 中間処理業 収集運搬業（積替え保管を含む）
産廃エキスパート
認定番号 3-14-C0012
認定番号 3-14-B0076
優良産廃処理業者認定制度
優良認定業者
ありあけこうぎょう 検索
http://www.aknet.co.jp/
有明興業株式会社
ARIAKE KOUGYO CO.,LTD.
〒136-0063 東京都江東区和倉2-8-25 TEL.03-3522-1011 FAX.03-3522-1919

リサイクル&クリーン事業の 安心・安全・快適 をサポート

トータルリサイクル施設　三凌愛川リサイクルセンター

堆肥化処理プラント

選別処理プラント

汚泥処理プラント

剪定枝処理プラント

三凌愛川リサイクルセンターは、廃棄物に応じて4つのプラントでリサイクルをおこなう処理施設です。

堆肥化処理プラント ・・・ 動植物性残さ、木くずを堆肥化

選別処理プラント ・・・ 廃棄物7品目の機械選別をおこない再資源化

汚泥処理プラント ・・・ 汚泥の減容化と路盤材の原料化

剪定枝処理プラント ・・・ 剪定枝のチップ化をおこない再資源化

ISO 14001 JQA-EM0918　JAB EMS Accreditation RE006

優良産廃処理業者 認定取得
全工場 ISO14001 認証取得

かながわリサイクル認定製品

かながわリサイクル認定製品「サンリョウ有機」

食品残さと剪定枝のオガ屑由来の堆肥を販売して以来15年以上、生産農家の皆様より安心安全の信頼を築いて参りました。

2015 年度 収集運搬業（積替え保管を除く）
産廃エキスパート
認定番号 3-14-A0030
エコアクション21
認証・登録番号 0003648

株式会社 三凌商事
〒194-0036 東京都町田市木曽東1-34-6 TEL 042-726-2647
支社 横浜 川崎 相模原 厚木 愛川 FAX 042-727-6743
SANRYO ホームページアドレス http://www.tyo-sanryo.co.jp

CONTENTS

「団体課題別人材力支援事業」が始動

女性部が日本工学院八王子専門学校にて「出前講座」開く　・・・・・・・・・ 2

安全衛生研修会

平成２８年度　第３回安全衛生研修会

産業廃棄物処理業における労働災害防止対策について　・・・・・・ 6

東京都廃棄物審議会

災害廃棄物部会（第３回）を傍聴して　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

青年部だより　新春講演会『環境ビジネス２０１７』『人財育成の仕組み構築の第一歩』　・・・ 14

女性部だより　平成２８年度　関東地域協議会 女性部会・交流会　・・・・・・・・・・・・ 16

委員会報告　収集運搬委員会、青年部、中間処理委員会、建設廃棄物委員会〈汚泥分科会〉　・・・・ 18

講師余談・古代史散歩［最終回］　日本人＝勇気ある祖先はどこから来たのか？　・・・・ 20

身近なヒヤリ・ハット事例　Part 107　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

協会の主な今後の日程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

事務局だより・編集後記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

表紙の言葉　・・・ 17

題字 : 東京都産業廃棄物協会　会長　高橋 俊美

「団体課題別人材力支援事業」が始動

女性部が日本工学院八王子専門学校にて「出前講座」開く

日本工学院八王子専門学校　土木・造園科の皆さん

東京都産業廃棄物協会は、平成 29 年 2 月 16 日㈭ 13 時 30 分より、日本工学院八王子専門学校（八王子市片倉町）において、団体課題別人材力支援事業「採用支援」の第 1 弾となる『資源リサイクルを考えるワークショップ』を実施した。参加してくれたのは土木・造園科 1 年生 66 名で、当協会女性部が企画と運営を担当した。同校の先生方の協力のもと、授業形式のワークショップにより、産業廃棄物や 3R について紹介するとともに、当業界に興味を持ってもらい、人材確保につなげることが狙い。

近年、様々な業種で人手不足感が増す中、当業界においてもドライバーを中心に人材確保や従業員育成などが大きな課題となっている。当協会では昨年度、東京都産業労働局から「団体提案型中小企業処遇改善サポート事業」を受託し、参加企業から継続を望む声があがっていた。今年度も、東京都が（公財）東京しごと財団と連携し「業界内の状況に精通している団体を通じて、中小企業の人材確保等の支援を行う『団体課題別人材力支援事業』」への企画提案が採択され、平成 30 年 3 月までの 2 年間で採用支援・定着率向上等を目的とした 4 事業を実施し、業界の課題解決に向けた取組を進めることとした。　（取材　塩沢美樹）

本事業では、人材サービスのアデコ㈱とコンソーシアムを組み、会員に限らず広く参加企業を募集し、平成 28 年 11 月末までに約 50 社を選定した。参加企業は、アデコのコンサルタントを受けながら、「採用支援」「資格取得支援」「従業員育成・定着率向上に向けた各種研修」「雇用環境整備（事業承継）」の 4 つのメニューを実施する。

「採用支援」の取組は、当協会の青年部・女性部がプロジェクトチームを結成して進めることとなった。業界の魅力・やりがいを伝えるためには、実際に処理業の現場に立つメンバーが不可欠であるとして、全国に活動を展開する両部の企画力・行動力が期待されている。

今回の環境ワークショップは、採用支援事業の第 1 弾として、女性部が中心となって実施した。大学の環境系学部や専門学校に出向き、産廃処理業についての理解を深めてもらうとともに、処理業で働く人との交流を通じて業界を身近に感じてもらい、雇用促進や優秀な人材の発掘にもつなげたいとしている。こうした「出前講座」のほか、「合同企業説明会・合同面接会」を、数回にわたり開催する予定だ。

「資格取得支援」では、業務遂行スキルアップや、職種転換に通ずる一般資格、ステータス向上・賃金上昇を見込める専門資格の取得を支援し、勤務する企業への帰属意識やモチベーション向上につなげる。受講可能な講習には、廃棄物処理施設管理責任者講習・フォークリフト運転技能講習・小型移動式クレーン運転技能講習・玉掛け技能講習・簿記（1 級～3 級）などがある。

「従業員育成・定着率向上」では、6 つの研修メニューが用意されており、その一つである「関係法令等を踏まえた営業スキルアップ研修」では、排出事業者との交渉において必要となる、関係法令や知識・ノウハウを学び、従業員が自信を持って営業展開できるスキル等を身につける。

「雇用環境整備（事業承継）」では、円滑な事業承継を目的に、法務・財務・経営面から雇用環境整備に資する経営者・管理監督者向けの研修を実施する。研修例として、事業承継に向けた「経営の高度化と原理原則」や、親族内事業承継の場合の対策・産廃業界の M&A などを学ぶ「事業承継対策の必要性・事業承継法制概観」などが用意されている。

セミナーを担当した山下氏

ワークショップ担当の陶山氏

ワークショップ担当の平原氏

資源リサイクルを考えるワークショップ

1　業界を知ろう！

まず、山下田鶴氏（東港金属㈱　人事担当）が15分間のセミナーを行った。産業廃棄物の発生量や処理・リサイクルの方法、産廃処理業の仕事などについて紹介し、「産廃処理業は静脈産業と呼ばれ、あらゆる産業になくてはならない仕事」「環境を守るために何ができるか考えて欲しい」と語りかけた。

「皆さんが今後、どの業界に就職するとしても、自分の給料がどのような産業活動から生み出されるのかを事前に知っておくべき」と、人事担当者らしいアドバイスも印象的だった。

授業の開始と総括をしてくださった
テクノロジーカレッジ 清水憲一科長

2　携帯電話を解体・選別してみよう

1つめのワークショップでは、陶山純子氏（㈱リーテム）が、小型家電リサイクルについて、「最終処分場の延命や、資源が採取される地域の環境破壊の阻止につながる」「携帯電話から回収される金は、天然鉱山からの回収量の10～100倍になる」などと説明を行った。

実習コーナーでは、学生が11班にわかれ、

Workshop 1

安全ゴーグルと手袋をつけて、携帯電話を解体・分別

サンプルとして用意された携帯電話を分解して、どんな素材が含まれるかを確認した。女性部員と部員企業所属の若手社員が各班に1～2名入り、ともに作業したりアドバイスしていた。

3　選別・廃棄を考えよう

2つめのワークショップでは、平原由紀氏（山下産業㈱）が建設業界のリサイクルについて解説し、不法投棄された廃棄物の約90%が建設系廃棄物であること、発生段階で分別を行えば、資源として再利用しやすくなることなどを説明した後、「建設現場でリサイクル！」と題し、班対抗の分別ゲームを実施した。

学生たちは、廃棄物のイラストが書かれたカードを、ヤードに見立てた用紙の上に木くず・廃プラスチック類・がれき類などに「分別」した。ゲーム終了後には、環境負荷を減らすために建設現場で出来ることについて各班で議論し、代表者が発表を行った。「無駄な発注をしない」「3つの“R”を意識する」「他の企業と連携し、再利用できる物は別の現場でも使うことで無駄をなくす」などの意見が出されていた。

最後に、山下氏がレビューを行い「今日皆さんが気づいたことを社会で実践することで、循環型社会の構築が進む。“いま便利なもの”ではなく、製造段階から元の素材に戻るまでのシナリオを描ける社会人となってほしい」とまとめた。

❀　❀　❀

今回の出前講座では、ライフサイクルを考慮したものづくりへの気づきを目的にカリキュラムが組まれ、講義だけでなくゲームを取り入れるなど、学生を飽きさせない工夫が凝らされていた。終了後のアンケートには「とてもためになった」との意見が多く寄せられ、約85%の学生が、当業界に「興味を持った」と回答していた。

Workshop 2

班対抗分別ゲーム・意見交換と発表

平成 28 年度 第３回安全衛生研修会

産業廃棄物処理業における労働災害防止対策について

安全衛生推進委員会（伊藤委員長）は平成 29 年 2 月 28 日㈫ 14 時 30 分から、エッサム神田ホール（千代田区神田鍛冶町）に於いて、今年度 3 回目の安全衛生研修会を開催した。

講師は、東京労働局労働基準部安全課産業安全専門官の今井義人氏で、『産業廃棄物処理業における労働災害防止対策について』をテーマに講義を聴いた。参加者は 57 名であった。　（取材　塩沢 美樹）

講習会場

今回は、近年この時期の恒例となっている、当業界における労働災害防止対策について開催した。

講義内容は、労働災害発生状況、事例と対策、高年齢労働者の災害対策、安全対策に係る基本的な考え方等について、最新データ（平成 28 年速報値）をもとに説明があった。伊藤委員長が開会挨拶の中で「弊社では毎年３月に１年間の事故やヒヤリハットを分析して、新年度の安全衛生計画を策定している。最近の事例を見ると、単に歩いていて転ぶ、階段の最後の１段を踏み外してケガをするというような、日常や、いつもの作業の中に危険があって、それが顕在化することが多くなってきた気がしている。」と述べたように、今井講師も「“転倒”は、重篤な労働災害につながることを認識してほしい」と、繰り返し強調されていた。

そこで本誌では、主に、当業界での労働災害の傾向と、安全対策の基本の考え方について、抜粋して紹介します。

●東京都の労働災害と当業界の傾向

労働災害による全国の死傷者数（休業 4 日以上）は、昭和 47 年の労働安全衛生法の施行により右肩下がりで大幅に減少してきたものの、ここ 10 年は減少傾向が停滞している。

東京都においても、最近 10 年間は 9,000 人台を推移して横ばい状態である。しかし、業種別に見ると、労働災害率（強度率・度数率）が最も高い産業といわれる建設業では、平成 18 年に比べ３割、同じく製造業では４割の労働発生件数を減らすことに成功している。

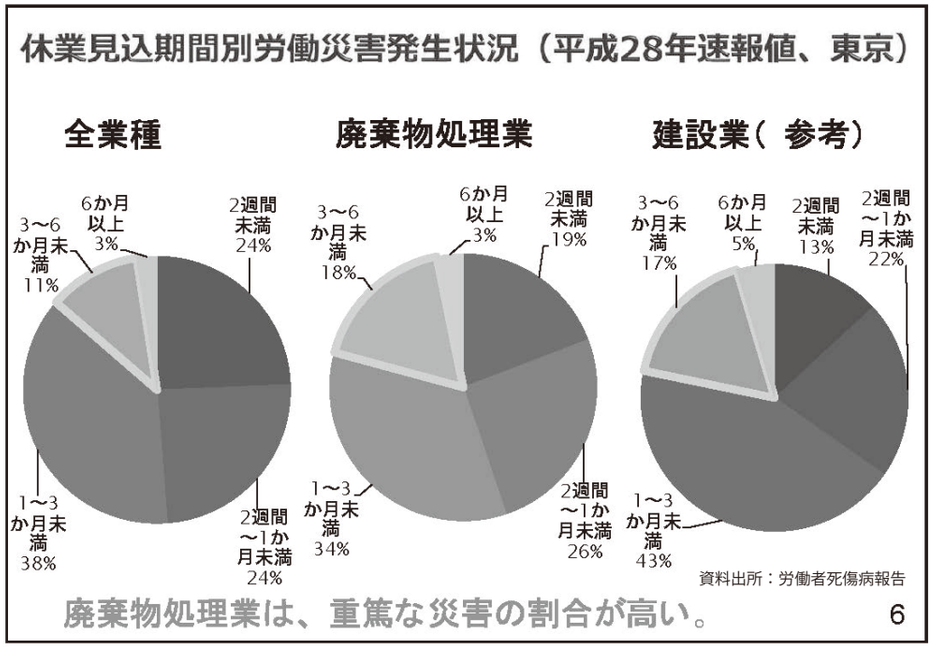
一方、産業廃棄物処理業の労働災害による死傷者数は、年 80 ～ 90 人で推移し、10 年前とほぼ変わらない、つまり減らせていない状況である。

総体で見ると横ばいでも、業種によって、事情はだいぶ違うようである。

講師の今井専門官

産業廃棄物処理業の特徴をしっかり把握するために、最新データで休業日数の長さを比較すると（**資料１**参照）、全業種では３～６ヶ月未満の割合が 11％に対し、廃棄物処理業は 18％で、建設業（17％）を超えている状況であり、廃棄物処理業は全業種の中でも、ケガの程度が重篤であることがわかる。

資料 1



「産業廃棄物処理業における労働災害防止対策について」研修会テキストより

続いて、型別で見ると（**資料２**参照）、全業種的に、いま一番問題となっている労働災害は「転倒」による災害なのだそうだ。**産業廃棄物処理業でも**、下図のとおり**「転倒」が第１位**である。当業界の皆さまは、どうしても「はさまれ・巻き込まれ」にばかり気が向いてしまうかもしれないが、これからは考え方を変えて、当業界においても「転倒」が危険だということを、もっと認識する必要がありそうだ。

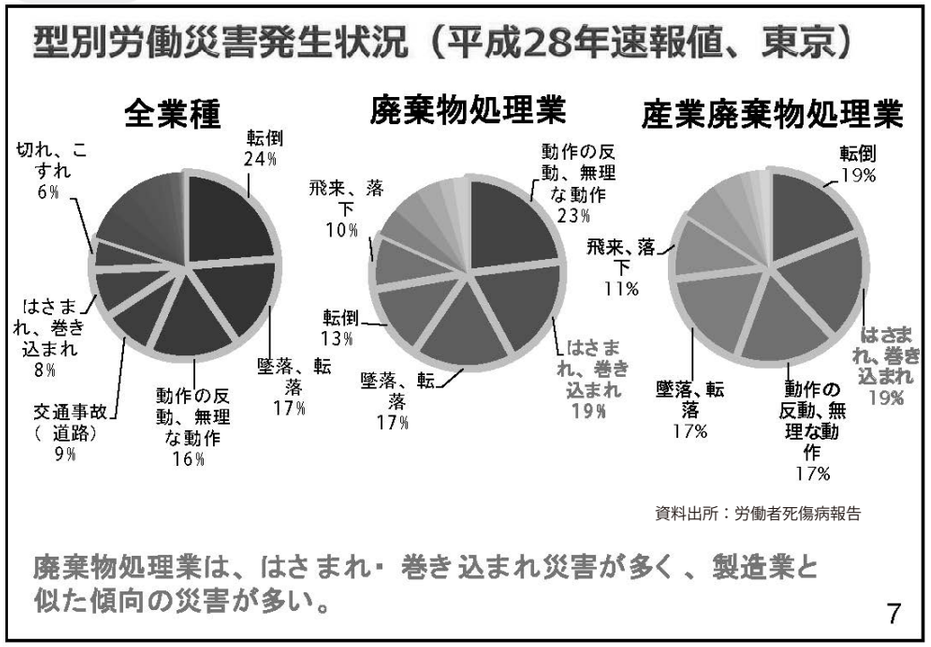
さらに、**資料４**（10 頁）に示す通り、平成 12 年当時、労働災害の原因として第３位であった「転倒」が、平成 17 年には第１位となり、現在まで増加し続けている。

その理由のひとつは、社会の高齢化である。高齢者ほど転倒災害のリスクが増加しているといわれている。

「転倒」が労働災害の分野に広がっていることを認識していただく必要があるのは、単に件数の問題だけではなく、「甘くみてはいけない災害」だからだ。**「たかが転倒」と思われがちだが、ケガの程度がとても重篤**で、骨折や顔面・頭を打ち付けるようなケガにより、約６割が１ヶ月以上の休業となっているのだ（**資料３**参照）。

廃棄物処理業における死亡災害は、「はさまれ・巻き込まれ」がやはり多く、「転倒」に起因する死亡災害は見つからない。しかし、産業廃棄物処理業では発生件数で「転倒」が最多であるということは、「ヒヤリ・ハット」の中に相当数が潜在しているはずだ。申告されにくいのは、**労働者自身が自分の体験（転倒）を「ヒヤリ・ハット」と思っていないから**ではないかとのことだ。

資料２



「産業廃棄物処理業における労働災害防止対策について」研修会テキストより

●安全対策に係る基本的な考え方

① どんな小さなことでも「ヒヤリ・ハット」を報告してもらい、労働災害情報を把握する。正しく申告されているか、検証も必要だ。

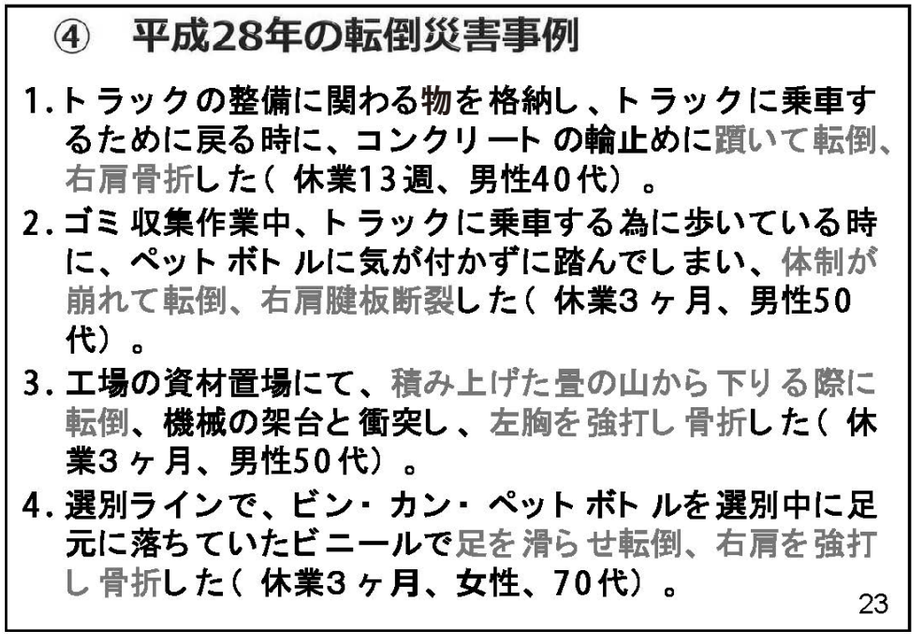
② 事故は繰り返す。過去に発生した事故事例を収集し、発生状況を図示するなどして、従業員に周知する。発生事例を見る意義は、「こんなことをしたら、どういうことが起こるのか」という想像力を養うことなのだ。だから是非、イラストや写真を盛り込んだ過去の災害事例等を用いて（**資料５**、11 頁参照）、「恐ろしいな」と思ってもらうことが大事だそうだ。

③ 収集した事例は、データ化し、年別・月別・発生時間別・経験年数別など、災害分析（グラフや表を作成）する。業種により時間帯が特定しやすいので、できれば時間帯の分析だけでも実施してほしいとのことだ。

④ そして、分析の結果は必ず教育に反映させる。もっとも説得力があるのは、過去事例の周知とのこと。建設業と製造業では、かなり教育に力を入れ、「安全第一」をスローガンに、安全衛生方針に基づき取組んできた結果が、講義の最初にあったとおり、労働災害減少につながった。

最後に、**経営トップによる安全衛生方針の表明（＋見える化）**が災害防止の取組においてもっとも重要だ。担当者任せにしてはいけない。災害防止対策を実施することで、災害が減少し、働きやすい魅力ある職場にしていただきたい、とのことだった。（「安全衛生方針」の例は**資料６**、11 頁参照）

資料３



「産業廃棄物処理業における労働災害防止対策について」研修会テキストより

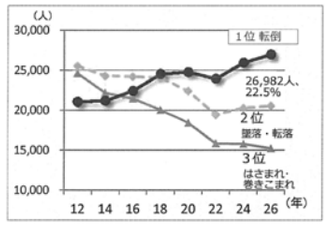
資料 4

STOP!転倒災害

厚生労働省と労働災害防止団体では、**転倒災害**を撲滅するため
「ＳＴＯＰ！転倒災害プロジェクト」を推進しています。

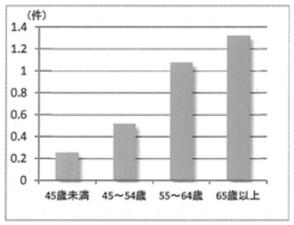
事業者の皆さまは、職場の**転倒災害防止対策**を進めていただくとともに、プロジェクトの重点取組期間（２月、６月）には、チェックリスト（最終ページ）を活用した**総点検**を行い、安全委員会などでの調査審議などを経て、**職場環境の改善**を図ってください。

転倒災害は今、最も多い労働災害で、しかもその割合は年々増えています。また、長期の休業につながることも多く、深刻な問題になっています。



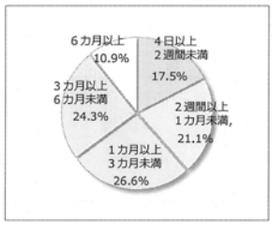
平成26年 厚生労働省　労働者死傷病報告
「事故の型別死傷者数の推移」

高年齢者ほど転倒災害のリスクが増加し、55歳以上では1,000人に１人以上が被災しています。



平成26年 労働者死傷病報告と総務省労働力調査
「年齢別転倒災害の発生率」
（労働者千人当たりの転倒災害発生件数）

転倒災害による休業期間は、約６割が１カ月以上となっています。



平成26年 労働者死傷病報告
「転倒災害による休業期間の割合」

転倒災害の種類と主な原因

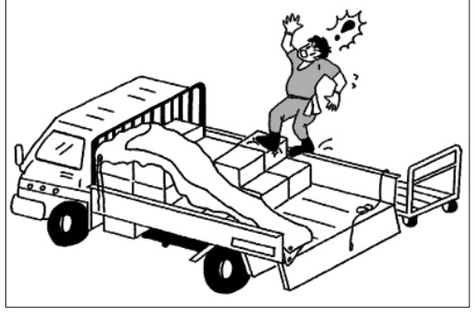
▶転倒災害は、大きく３種類に分けられます。皆さまの職場にも、似たような危険はありませんか？

滑り	つまずき	踏み外し
<主な原因> ・床が滑りやすい素材である。 ・床に水や油が飛散している。 ・ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。	<主な原因> ・床の凹凸や段差がある。 ・床に荷物や商品などが放置されている。	<主な原因> 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。

職場のあんぜんサイト「STOP! 転倒災害プロジェクト」リーフレットより
http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/tentou1501.html

資料 5

小型トラック荷台上でシート掛け作業中に足を踏みはずしそうになった



※ヒヤリ・ハットのイラストは、職場のあんぜんサイト「ヒヤリ・ハット事例」からダウンロードできます。
☞ http://anzeninfo.mhlw.go.jp/hiyari/anrdh00.htm
※右は、厚生労働省『「見える」安全活動コンクール』（優良な活動事例）より
☞ http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject/concour/2013/result.html#01

資料 6

「産業廃棄物処理業における労働災害防止対策について」研修会テキストより

東京都廃棄物審議会

災害廃棄物部会（第３回）を傍聴して

当部会（学識経験者５名で構成。）の第３回が平成 29 年２月 15 日㈬ 10 時－正午に都庁で開催されたので、それを傍聴してきました。（第１回傍聴記は本誌第３１３号、第２回は同第３１７号を参照のこと）

第３回部会の議題は、東京都災害廃棄物処理計画に記載すべき事項についてなどでした。

今後のスケジュールは、３月７日㈫に開催される東京都廃棄物審議会（高橋会長が委員として出席）で東京都災害廃棄物処理計画（案）が審議された後、パブリックコメントに付されることになっています。よって、この記事が会報として届くころには、パブリックコメントが始まっていると思いますので、今回は、部会の内容を聞いて、東京都産業廃棄物協会として今後なすべきことを中心に書くこととしました。

１　東京都災害廃棄物処理計画（案）で記載される事業者（処理業者）の役割

災害廃棄物処理を進めるには、行政機関、都民及び事業者が緊密に連携して取り組んでいかなければならない。

平時から、事業者は、①災害廃棄物対策を含めたＢＣＰ（事業継続計画）の策定、②自治体との協定締結、③事業者団体内の連携に向けた取組、④処理施設の強靭化、に取り組む。東京都は、民間処理施設の処理能力や災害廃棄物の受入条件、受入可能性等について事業者から定期的に情報収集する。民間事業者からの支援を想定し、受援内容をあらかじめ整理しておく。

初動期（発災後１か月まで）には、廃棄物処理施設管理者は、被災の有無を確認し、施設の修復や安全対策を行う。区市町村が定める災害廃棄物処理実行計画に基づき、災害廃棄物の処理に協力する。

応急対策期（１か月後）には、区市町村で仮置場が設置・運営されている。東京都は、民間事業者団体等と連携し、廃棄物処理施設の被災状況（ライフラインの供給状況や搬入道路状況を含む）に関する情報を集約し、整理する。東京都は、要処理量等を算定し、処理方針及び処理推進計画を策定する。

災害復旧期・復興期（１年後）には、事業者は、災害廃棄物の再資源化により生成された復興資材を活用している。

平時の訓練・演習には、行政だけではなく、関係事業者団体等にも参加を求めて、連携強化を図る。

等々

２　当協会から見た課題

⑴ 東京都産業廃棄物協会として体制

東京都と当協会では、平成 19 年に災害廃棄物の処理等に関する協定書を結んでいる。

しかし、東日本大震災や大島町からの災害廃棄物処理ではこの協定を適用せず、また幸い運用実績がない。したがって、今後、協定に基づき実際に行なう処理に関しては、平時に具体的なシミュレーション等を行っておく必要がある。その際、当協会は法人としても事務職員としても処理を行うに足る能力を有していないため、例えば都内を４つのブロックに分けてブロックごとに核となる会員企業を選定し、そこが行政との契約当事者になって、再委託や再々委託を駆使しながら処理事業を実施する仕組みを考えてはどうかと考える。

⑵ 区市町村との関係

災害廃棄物処理実行計画を策定する区市町村と、当協会との関係をどうするか。地区単位の組織がある業界団体では、地区単位で区市町村と協定を結ぶ方法があるが、当協会ではそうはいかない。大規模災害を想定すると、複数の区市町村から同時に要請を受ける可能性が高いので、区市町村レベルからの支援要請は東京都を通じてとなるようにしないと対応できない。また、区市町村ごとに契約や支払方法など実施方法が異なるのでは負担が大きくスムーズな処理が行い難いので、都内の区市町村と当協会との連携は、東京都が統一性のある仕組みを整えてほしいと考える。

⑶ 処理施設の強靭化

東京都は、区市町村のごみ処理施設に対する強靭化支援を行うと記載されているが、民間処理施設の強靭化支援については触れていない。これを東京都にお願いしていく必要がある。

⑷ 再資源化した物のストックヤード

平時の都内の産業廃棄物中間処理業者の処理実績は年 1,000 万トン弱であるのに対し、災害廃棄物の発生量は、東京湾北部地震の想定で 4,287 万トン、多摩直下地震で 3,121 万トンと膨大な量に及ぶ。これを災害廃棄物処理方針にあるように再資源化しようにも、利用先での受入が進まないと物がはけない。復興資材として使えるまでにはタイムラグも生じる。よって、中間処理により廃棄物を卒業したとしても公共セクターがストックヤードを整備しなければならないと考える。

（専務理事　木村　尊彦）

青年部新春研修

『環境ビジネス２０１７～排出事業者目線の環境対策～』
『人財育成の仕組み構築の第一歩～定額制社員教育サービス～』

青年部（石田部長）は、平成 29 年 1 月 26 日㈭ 15 時より、協会会議室に於いて、研修会を実施した。45 名もの参加があり、会議室が満員の状況でのスタートとなった。

はじめに、石田部長から、青年部の今年の重点事業であり、女性部とプロジェクトチームを組んで進めている「団体課題別人材力支援事業」の採用支援事業について、当部としてどのように取組むのかなど、熱い想いを込めた開会挨拶があった。

続いて、３年前から継続している恒例の情報発信企画『NEWS5（ニュースファイブ）』では、松嶋副委員長より次の２つの情報提供があり、営業の話題や活動に活かせる内容だった。

(1) 東京都の中小企業マッチングサービスの紹介
(2) 持続可能な開発目標（SDGs）について

白田氏

新春講演会

環境ビジネス2017
～排出事業者目線の環境対策～
講師：　白田 範史 氏
株式会社日本ビジネス出版　編集長

新春講演会の第１部では、環境分野の業界情報を発信し続けている㈱日本ビジネス出版の白田編集長を招き、今年の業界予想について、次の４つのテーマで講演を頂いた。

◎廃棄カツ問題から一年
　企業のリサイクルとコンプライアンス
◎企業の環境対策の流れ
　CSR から ESG へ
◎環境・エネルギーに関する国際的な動き
　パリ協定と企業の動き
◎環境・エネルギーに関する国の動き
　（法制度・予算）

内容としては、昨年世間を震撼させた廃棄カツ問題に対して、読者アンケートの結果を元に、排出事業者の意識や取組の変化について説明があり、環境省の動向からあるべきコンプライアンスについても説明頂いた。

中でも、29 年度予算要求の中で環境省の環境保全費関連が大幅に伸びていることについては、誰もが注目しながら聞き入っていた。昨年の G7 環境大臣会合が日本で開催されたこともあり、全世界から日本の環境施策が注目されていることは間違いなく、それに対応するための予算要求と思われる。我々も業界に携わる人間として、環境改善活動と経済の両立に貢献していると自負しながら、日々の業務に取り組みたいものである。

講師の白田編集長からは、講演会終了後に次のようなコメントを頂いた。

「ご縁で引き受けたものの、業界について深く仕事をしているわけではないので、お役に立てるお話ができるか心配をしていました。懇親会で皆さまの熱意に触れることができました。「新事業に取組みたい」「業界として人材育成に取組む」「競合ではなく、全体で盛り上げる」といった皆さまからのお話は、私にとって大きな刺激と学びとなりました。」

人財育成の仕組み構築の第一歩
～定額制社員教育サービス～
講師：　宮崎　麻未氏
トーマツイノベーション株式会社

第２部は、全産業で問題となっている人材確保・人材育成分野の問題解決につなげるため、定額制社員教育サービスを提供しているトーマツイノベーション㈱の宮崎氏より、サービス内容やポイントについて説明を頂いた。

同社の「Biz CAMPUS」は、同社主催の従業員教育が定額制で受けられる公開型ビジネス研修サービスで、その特徴は、

- 新人から経営幹部まで各階層に合った研修テーマを 100 種以上開催
- 要点をまとめたテキストを用いて、振り返りも可能
- 1 つのセミナーにつき、1 社あたり 5 名受講可能（日程の振替が可能。）

宮崎氏

どんな職種でも受講できる多彩なセミナーを、同じ内容で繰り返し開催しており、都合がつかない場合は振替も可能だ。忙しい方でも参加しやすいのも嬉しいポイントである。既に利用している会員企業が数社あるとのこと。実は、私が所属する㈱浜田でも昨年 12 月から取り入れている。

宮崎氏からは以下のコメントを頂いた。

「人材育成の重要な手段として研修を実施される企業は多いですが、研修をきちんと成功させるためには、研修そのものよりも、むしろ研修前の動機づけと研修後の知識定着・実践のフォローの方が大切と言われています。当社では、人材育成の総合支援を行う会社として、研修の質にこだわることはもちろん、企業の課題に合わせた受講計画や受講後に知識の定着度を見るテストなど、効果的な学び体験を提供しています。」

＊　＊　＊

青年部研修委員会では、これからも研修を通じて、みなさんの業務に役立つ情報を発信していきたいと考えております。このような機会にアンテナ高く情報をキャッチしていただき、日々活動に活かしていただければと考えております。

（青年部研修委員会
㈱浜田　山本 隆之 記）

平成２８年度　関東地域協議会 女性部会・交流会
＝千葉県女性部会設立 10 周年記念祝賀会＝

参加者全員による集合写真

平成 29 年２月３日㈮、関東地域交流会及び千葉県産業廃棄物協会女性部会設立 10 周年記念祝賀会がベイサイドパーク迎賓館千葉にて行われました。

はじめに元ＮＨＫ「ためしてガッテン」専任ディレクターであり消費生活アドバイザーの北折一先生の講演会が**「ガッテン流！お酒と健康のウソ・ホント～意志の弱いおじさんおばさんのために～＆インチキダイエットの見破り方！！～」**というタイトルのもと行われました。最初は○×クイズ形式で「ダイエットと健康」について正しく理解しているかを確認し合い、マスコミが伝える情報が必ずしも真実とは限らないという事を再認識しました。また、お話の中で「ガッテン」の撮影現場のお話もしていただき、出演者に素のリアクションを求めるために内容は全て秘密だった事など、番組制作の裏側も教えていただきました。北折先生が推奨するダイエット法は「計るだけダイエット」です。一日２回、朝と晩に体重計に乗り記録するだけで、自分の体重の増減を把握し、段々と痩せていくとのこと。北折先生自身も３ヶ月でマイナス７キロ減に成功されています。無理なく楽しく続けられるそうなのでご興味のある方はぜひ挑戦してみては！

新郎姿で登場！！講師：北折氏

講演会は１時間半ありましたが、先生の巧みな話術と、詳しい健康へのアドバイスは最初から最後までとても楽しく、また勉強になる事ばかりで時間が経つのがあっという間でした。

祝賀会は、はじめに千葉県産業廃棄物協会女性部会・池田部会長よりご挨拶、全国産業廃棄物連合会・石井会長よりご祝辞をいただき、同連合会関東地域協議会・城田副会長より乾杯のご発声をいただきました。また、千葉県女性部会の皆様より心温まるハンドベルの演奏や埼玉県環境産業振興協会女性部会・栃原部会長より迫力のある民謡をご披露いただき、終始和やかなムードで楽しいひと時を過ごさせていただきました。

さらに、㈱アンカーネットワークサービス碇社長より、ご自身で作詞作曲された「エコトライ！出発」という千葉県女性部会 10 周年を記念した特別な歌を、ギター・ピアノ演奏と共にご披露いただきました。参加された皆様が一緒になって歌い、最後は手を取り合いながら大合唱となり、大いに盛り上がりました。

そして、最後に千葉県女性部会・北副部会長より締めのお言葉をいただき、閉会となりました。千葉県女性部会の皆様を始め交流会開催にご協力いただいた方々の素晴らしいおもてなしに大変感動した一日でした。

（ＪＦＥ環境㈱総務部　佐藤 亜海　記）

表紙の言葉

●**今月の写真**：アオウミガメ（青海亀）
〔学名：Chelonia mydas　英名：Green turtie〕
●**撮影者**：阿部 秀行 氏（協会専任相談員）　●**撮影地**：沖縄県（座間味）
●**分布**：インド洋、大西洋、太平洋　体長 80 ～ 100㎝
●**撮影者コメント**：アオウミガメは、ワシントン条約で絶滅危惧種に指定されており、特にダイバーが亀に触れることは禁止されています。国内のガイドの中には冗談半分で捕まえて遊んでいるガイドもいますけど感心しませんね。
　日本の産卵地は、南西諸島や小笠原諸島などが有名です。食性は植物食の傾向が強い雑食で、主に海草や藻類をも食べます。サンゴの中にいる褐虫藻を得るためサンゴもかじっています。食事中は 10㎝程度まで近づいても平気です。また寝るときは穴の中に顔を突っ込んで寝ています。海中では大人のカメはよく見ますが 10㎝以下のカメにお目にかかったことがありません。どこに隠れているのでしょうかね？

委員会報告

収集運搬委員会（加藤委員長）

開催日時： 平成 29 年 2 月 15 日㈬ 15 時～　**場所：** 協会会議室　　**出席委員：** 12 名

議題及び内容：

● **11 月開催予定の研修会について**

11 月に開催を予定している研修会について検討した結果、「人材確保のための長時間労働の削減」「配車・運行管理」をキーワードに研修会を企画することとした。今回の議論を踏まえて、さらに研修会の内容を精査していく。

次回開催日： 4 月 26 日㈬ 15 時～　協会会議室

青年部（石田部長）

開催日時： 平成 29 年 2 月 21 日㈫ 14 時～　**場所：** 協会会議室　　**出席委員：** 14 名

議題及び内容：

① **委員会報告**

総務委員会からは、1 月の収支について報告された。

研修委員会・コミュニケーション委員会からは次年度開催の研修合宿やレクリエーション企画、賀詞交歓会について報告された。

② **「団体課題別人材力支援事業」の採用支援事業について**

POWER WORK の担当者を招き、採用支援に関する広告掲載について説明があった。また、今後の活動内容について検討を行った。

次回開催日： 3 月 14 日㈫ 15 時～　協会会議室

中間処理委員会（碩委員長）

開催日時： 平成 29 年 2 月 23 日㈭ 15 時～　**場所：** 協会会議室　　**出席委員：** 10 名

議題及び内容：

●平成 29 年度年間行事計画の具体的な内容について

① **「（仮称）事故事例に学ぶ勉強会」**

4 月に開催を予定している 3 分科会合同の「（仮称）事故事例に学ぶ勉強会」について検討した結果、保険会社が中間処理業者の事故事例を紹介する形式の勉強会を行うこととなった。

② **研修会「CO_2 削減対策について」**

収集運搬委員会との合同で 9 月に開催を予定している「CO2 削減対策について」の研修会について、事務局から実施方法等について説明があった。参加人数は多くなることが予想されるため、会場を借り上げて開催することが決定した。

③ **施設見学会**

10 月に開催予定の施設見学会については、災害廃棄物処理に係る知見を深めるため、熊本県へ見学に行くこととなった。

④ **その他**

次回の中間処理委員会開催までに、各分科会を開催し、次回委員会時に各分科会活動計画等を報告することとする。

次回開催日： 5 月 30 日㈫ 15 時～　協会会議室

建設廃棄物委員会〈汚泥分科会〉（鈴木分科会長）

開催日時： 平成 29 年 2 月 24 日㈮ 15 時～　**場所：** 協会会議室　　**出席委員：** 4 名

議題及び内容：

●対策及び今後の進め方について

① 東京都・近隣県・関係団体の動き等についての情報交換が行われた。

② 建設泥土改良土を廃棄物から卒業させる方策の一環として、公共発注部局における泥土改良土使用のモデル事業を実施するための今後の取組みについて協議した。

次回開催日： 4 月 5 日㈬ 15 時～　外部会議室

講師余談・古代史散歩［最終回］

日本人＝勇気ある祖先はどこから来たのか？

世界遺産・ラスコー展　２月中旬まで、上野の国立科学博物館で世界遺産ラスコー展があった。この古代史散歩も今回で終了となるので、このラスコー展の中の新人（ホモ・サピエンス）の日本列島到来にまつわる話を以って締めとしたい。

人類がいつから「絵」を描き始めたか、という芸術の始まりともいえる営みの最古の証拠の一つが、フランスにある２万年前のラスコー洞窟の壁画だ。アフリカからヨーロッパにやってきたホモ・サピエンス＝クロマニョン人が、真っ暗な洞窟へ入り込み、そこに多数の壁画を残した。その中でも最高傑作とされているのがラスコー洞窟の壁画で、この人類最古の芸術とクロマニョン人を紹介するのが、ラスコー展だ。

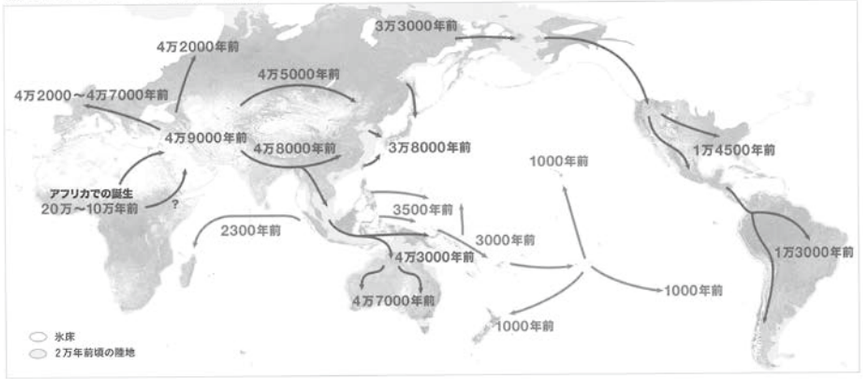
その最後の部分で、クロマニョン人の時代の日本列島というテーマの展示がある。それは、ホモ・サピエンスの日本列島到来から始まる。

猿人・原人・旧人・新人　７００万年前にアフリカのエチオピア辺りで半樹上・半地上性の初期の猿人が現れ、次いで４２０万年前に地上活動を強めた猿人の段階に入り、２５０万年前頃に東アフリカにいた猿人の集団の中から原人に進化したものが出現した。原人は直立二足歩行し、脳頭蓋は大きく丸く人間らしい頭骨形態を有する。１８５万年前頃に初めてアフリカから出てアジアの地を踏み、やがて中国（北京原人）やインドネシア（ジャワ原人）にまで広がる。

原人の次に登場したのが旧人で、やはりアフリカで最初に出現し世界に広がっている。ヨーロッパのネアンデルタール人がその代表で、旧人は石器を作り日常的に火を利用し、７万年前には死者の埋葬を始めた。そして２０万年前に、東アフリカで旧人からさらに進化した新人（ホモ・サピエンス）が出現する。現生人類のアフリカ起源説といわれるものだ。ホモ・サピエンスは４万９０００年前に出アフリカを敢行し、アジアから世界へと拡散、絵を描き装飾品も作ることができた。

新人の東アジア到達　最新の遺伝学・化石形態学・考古学の証拠によれば、５万年前以降、参考図Ａのようにホモ・サピエンスは世界に急速に拡散した。シベリアの寒冷地にもなぜか果敢に進出している。なお、旧人が滅んだのは４万年前とされ、ホモ・サピエンスと旧人が併存し、両者の間で交雑が行われてもいる。アフリカ人以外の現生人集団で、ネアンデルタール人と共通するDNAを持っているのは1.5%～2.1%の割合だという。参考図Ａは国立科学博物館の海部陽介氏による新学説によっており、中東からアジアへの拡散パターンが、ヒマラヤの南と北の２つのルートであること、東に向かった集団がどちらも東アジアに到達したとしている点が新しい。

推定されるホモ・サピエンスの世界への拡散ルート



参考図Ａ（ラスコー展図録　140頁）

日本列島への３つのルート　東アジアに到達した集団のどれかが日本列島に渡ってくる。日本では３万８０００千年前に突如として人類遺跡が爆発的に出現する。しかし、中国や朝鮮半島では原人などの存在を示す石器が出て、日本列島にはナウマンゾウなど古い動物群がいたものの、列島には原人や旧人の化石は一つも出ていない。

想定される日本列島への３つのルートは参考図Ｂのとおりだ。３万８０００年前頃という列島最古の遺跡は熊本（石の下）、静岡（井出丸山）、長野（野尻湖・貫ノ木）に存在するが、北海道（若葉の森）や沖縄地方の遺跡は３万年前頃だ。

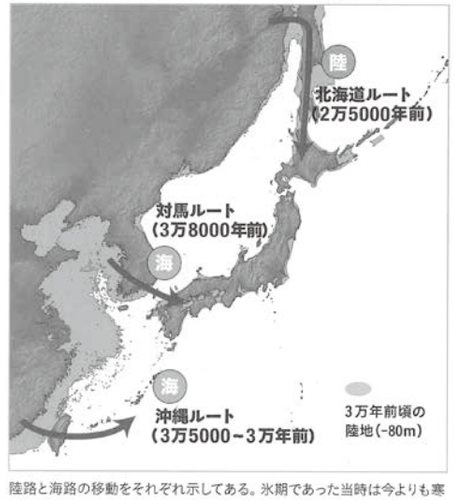
最初の渡来ルートは対馬ルートと考えざるをえない。当時の海面は８０㍍低かったが、対馬は島のままであり、朝鮮半島と日本列島側にそれぞれ４０キロほどの海峡が存在している。最初の日本列島人は海を越えてやってきたのだ。一体どのような船を用いて航海したのか謎ではあるが、最初に列島の土を踏んだ祖先は、間違いなく航海者だったのだ。対馬海峡を渡った集団は、本州・四国・九州がひとつながりになった古本州島の南九州から中部地方まで速い速度で広がり、彼らが残した後期旧石器文化は均質であった。

次いで渡来したのが沖縄ルートである。３万年前の遺跡の内容から見て本州と異質のものであるため、台湾から航海を敢行してやってきたと考えられる。土壌が弱酸性で化石の保存には向かない北海道から九州と異なり、奄美大島以南、沖縄ではサンゴ礁起源の石灰岩のおかげで化石骨が保存されるため、化石人骨が多く発見されている。最近発見の白保竿根田原遺跡（２万４千年前）はアジアを代表する人類遺跡になるといわれている。また３万年前には、陸上伝いの北海道ルートでの渡来があった。

勇気ある祖先は航海者　特に沖縄ルート、台湾から与那国島の間は当時でも１００キロを超える海であり、そこには世界最大規模の潮流である黒潮が北流している。これほどの海を渡る移動は、当時の世界にはなく、船から目的地が見えないような航海をどうやって実現したのか謎となっている。これを解明しようと『３万年前の航海　徹底再現プロジェクト』が昨年４月から開始されている。昨年、第一段階の実験は成功しなかったことは報道の通りだ。人類の移動はごく限られた人数が漂流の結果実現するものではない。かなりの人数の若い男と女からなる集団が海を渡って、新しい命が育って初めて移動が実現する。技術や知識は謎であるが、二度と帰れないことを覚悟した勇気があったことだけは確かだ。勇気ある航海者の末裔が日本人なのだ。　（古川　芳久）

＊『図録・世界遺産ラスコー展』国立科学博物館他編（2016～７年毎日新聞・TBS）
＊『日本人はどこから来たのか?』海部陽介（2016年文藝春秋）

想定される日本列島への３つのルートと渡来年代



陸路と海路の移動をそれぞれ示してある。氷期であった当時は今よりも寒く海面が80mほど低かったため、地形が異なっていた。

参考図Ｂ（ラスコー展図録　140頁）

身近なヒヤリ・ハット事例 Part107

	何処で	何をしている時	何がどうした	改善すべき事項
1	一般道路で	交差点進入時	交差点で右折する際、対向車で視界が悪かった為、自転車が直進してきたことに気付かず、接触しそうになった。	交差点では、右折する際、対向車の脇を自転車が直進してくるかもしれないので、十分に確認して発進する。
2	一般道路で	交差点発進時	信号が青になり発進しようとしたら、自車左後方から突然バイクが抜き去って行き、ヒヤリとした。	発進する際は左右のミラーを確認してからスタートするよう心掛ける。
3	一般道路で	走行中	法定速度を守りながら走行していたら、後続車から煽られた。	煽られても、焦らず惑わされることなく、法定速度を守って走行する。
4	一般道路で	走行中	狭い路地を走行中、子供が急に飛び出してきた為、接触しそうになった。	見通しの悪い道では、あらゆる事を想定して速度を落として走行する。
5	一般道路で	走行中	雨の日に鉄板の上でタイヤが空回りし、トラックが少し横滑りしてヒヤリとした。	雨の日は特にスリップしないように注意し、スピードを落として運転する。
6	高速道路で	走行中	高速道路の合流時に、お互いに譲り合いをして車が停車してしまった為、後方から追突されそうになった。	合流時には、前後の状況に気をつけて走行する。
7	高速道路で	走行中	首都高を 60km で走行中、後車が自車を追い越して前へ割り込み、車間がなかったので追突しそうになった。	割り込みもあり得ると予測し、スピードを抑えて走行する。割り込まれても回避できる車間を空けておく。
8	現場で	作業中	ごみの仕分け中に軽く投げたごみが人に当たりそうになった。	周りに人がいないことをしっかりと確認したうえで、安全な作業を行う。
9	現場で	バック時	現場へバックで進入しようとした際、自転車が自車の左ミラーと壁の間ギリギリを通り、接触しそうになった。	周囲をしっかり確認し、いつでも止まれる速度で走行する。

「ヒヤリ・ハット」の事例がございましたら、協会までお寄せ下さい。

協会の主な今後の日程

（平成 29 年 3 月 1 日現在）

月	日	曜日	行事予定	備考
3	3	金	多摩支部 委員会打合せ13：00～／幹事会14：00～／適正処理意見交換会15：00～／懇親会17：00～	たましんRISURUホール （立川市民会館）
	7	火	東京都廃棄物審議会　10：00～	都庁第二本庁舎
	8	水	広報委員会　10：00～	協会会議室
			常任理事会　13：30～／　第34回理事会　14：30～	協会会議室
	14	火	全産廃連；正副会長会議　12：00～13：00　／　理事会　13：30～	全産廃連会議室
			青年部　幹事会　15：00～	協会会議室
	15	水	医療廃棄物委員会　15：00～	協会会議室
	16	木	女性部　幹事会　13：30～　／　勉強会　15：00～	協会会議室
	17	金	関東地域協議会；平成28年度第2回事務責任者会議　15：00～	本協会会議室
	21	火	団体課題別人材力支援事業「合同企業説明会・合同面接会」 環境ビジネス☆就職フェア　プレゼン12：30～13：20／面談13：30～17：00	アクセス渋谷フォーラム
	24	金	安全衛生推進委員会　15：00～	協会会議室
	25	土	都・都医師会・本協会 主催　「平成28年度医療廃棄物適正処理研修会」 14：00～	都庁都民ホール
	27	月	＊平成29年度 許可申請に関する講習会 「受講の手引き」配布・全日程公表 開始～	
	28	火	総務委員会　14：00～　／　常任理事会　15：00～	協会会議室
4	3	月	＊平成29年度 許可申請に関する講習会　受付開始～	
	5	水	青年部　幹事会　15：00～	協会会議室
			建設廃棄物委員会〈汚泥分科会〉　15：00～	外部会議室
	12	水	広報委員会　10：00～	協会会議室
			常任理事会　13：30～／　第35回理事会　14：30～	協会会議室
	14	金	団体課題別人材力支援事業 PT　15：00～	協会会議室
	20	木	（女性部・予定日）	協会会議室
	21	金	第58回関東地域協議会	ホテルグランドパレス（東京）
	25	火	常任理事会　15：00～	協会会議室
	26	水	収集運搬委員会　15：00～	協会会議室

事務局だより

皆様に新年のご挨拶をさせていただいてから、早いもので、もう桜の開花が待ち遠しい季節を迎えております。1月に開催いたしました賀詞交歓会には、４００名近くの皆様にご出席いただき、新年にふさわしい祝宴となりました。ご多忙中、またお寒い中、誠にありがとうございました。

永年お越しいただいておりました青山ダイヤモンドホールからホテル椿山荘東京に場所を移しての開催となりましたので、ご案内不足や不手際等多々ありましたこと、ご容赦いただければ幸いでございます。会場は日本庭園も望める広々と落ち着いた雰囲気であったと思いますが、皆様のご感想はいかがでしたでしょうか。

只今、事務局では、平成 29 年度事業計画案と予算案の精査、検証に取り組んでおります。引き続き、会員の皆様へのサービス向上に専心してまいりますので、ご意見、ご要望等ございましたら、是非お聞かせください。

さて、本誌第２７４号、平成 25 年６月号より掲載しておりました表紙写真「癒しの海中散歩」は、本号が最終回となります。毎号楽しみにされていた読者の皆様も多くいらしたと聞き及んでおります。『お魚を探せ！表紙写真クイズ』実施の折には、多数ご応募いただきましてありがとうございました。皆様の関心に応える誌面作りに努めることは当然ですが、まず、機関誌を手に取り、本文記事を読んでいただくためには、一番最初に目に触れる表紙を魅力的なものにする工夫も必要かと考えます。

３年以上にわたり、海中の神秘、摩訶不思議な世界をご紹介くださいました阿部カメラマンには、この場をおかりして感謝申し上げます。

新年度４月号の表紙写真からは、塩沢編集員が担当いたします。新しいテーマのヒントはＴＯＫＹＯ（?）。今日も編集員は、取材に、撮影に奔走しています。ご期待ください。　（中澤）

編集後記

年度末の月を迎えています。本年度も紙マニフェストの頒布実績が予算に比較して良化したことにより、急激な収支の悪化は避けられそうな状況です。次号では平成 29 年度の事業計画・収支予算を掲載する予定ですが、正会員数の微減と紙マニフェストの頒布減少で、予算収支は厳しい状況に変化はございません。協会運営は工夫を凝らさなければならない状況のままです。

そうは言っても季節は春を迎え、間もなく桜の開花が告げられる時期となっています。

四季の季節感が薄くなってきたのではと、この欄にも何度か書きましたが、木々が一斉に青々としてくるこの季節は、大いに躍動を感じることができる貴重な瞬間です。

先月、テレビ・新聞等に昨今のエンゲル係数について、報道されていました。何とエンゲル係数が上がってきているという内容でした。皆様も覚えておられると想います。

しかしながら、何らかの違和感を感じられたかもしれません。よくよく、内容をみると生活様式の変化がもたらした結果のようで、エンゲル係数という概念が、設定当時と事情が異なっているようです。こうした現象は何もエンゲル係数だけではなく、他の概念でも過去と現在を単純に比較して良いかどうか迷う場合が現出してきているようです。

我が業界内でも景気という面ではなかなか良い話を耳に出来ないようです。しかし、これも従前から申し上げていますように変化に対して積極的に対応すべき時期と考えざるを得ないのかもしれません。

法改正に絡むパブコメが数多く出てくるようになっています。協会ではこれらの情報を出来るだけすばやく皆様にお届けするように努力していますが、皆様におかれましても毎朝、環境省のホームページを開いて、何らかの情報が公開されていないか、確認して頂ければ幸いです。

（乙顔）

とうきょうさんぱい

第 33 巻　第 12 号　通 巻 第 319 号

平成 29 年 3 月 10 日発行

発 行 人　高　橋　俊　美

企画・編集　広　報　委　員　会

発　　行　一般社団法人 東京都産業廃棄物協会

〒 101 － 0047
東京都千代田区内神田 1 － 9 － 13
柿沼ビル 7F
TEL　03（5283）5455（代表）
FAX　03（5283）5592
http://www.tosankyo.or.jp
E-mail;info@tosankyo.or.jp

～ ゼロエミッションに挑戦する ～

比留間運送㈱ 資源循環型リサイクル企業

★建設廃材（ALC）のリサイクルと活用方法★

JR東京駅 八重洲口

東京ﾄﾞｰﾑｼﾃｨｰ 庭園

歌舞伎座 屋上庭園

ALC廃材・解体材

★ 埼玉県 入間工場
【産廃・一廃（現在申請中）処分業】
【埼玉県入間市中神764-16】

ｶﾞﾗ陶破砕	360.0t/日
動残発酵	17.5t/日
動残混練発酵	5.8t/日

特 徴
①比重が50%軽い
②雑草が生え難い
③栄養価が高い
③全て廃棄物より製造
※年間平均 1,350kg-CO2削減

①軽量発泡ｺﾝｸﾘｰﾄ
1cm塊に破砕

＋

②伐採樹木
のﾁｯﾌﾟ化

＋

③動植物性残さ
の発酵処理

製品 人工軽量土壌

～許可品目と処理能力～

★ 東京都 伊奈平工場
【一廃・産廃処分業】
【東京都武蔵村山市伊奈平3-25-5】

廃ﾌﾟﾗ破砕	130.3t/日
廃ﾌﾟﾗ溶融	2.4t/日
廃ﾌﾟﾗ圧縮梱包	204.3t/日
紙くず破砕	52.8t/日
紙くず圧縮梱包	166.58t/日
紙くず焼却	4.8t/日
木くず破砕	328.9t/日
木くず焼却	4.8t/日
繊維くず破砕	41.8t/日
繊維くず圧縮・梱包	17.8t/日
動残発酵	3.5t/日
動残焼却	4.8t/日
金属くず破砕	81.6t/日
金属くず圧縮	4.3t/日
ｶﾞﾗ陶破砕	482.8t/日
がれき類破砕	480.0t/日

高精度選別機 計3基

全国産業廃棄物連合会青年部主催
CO2ﾏｲﾅｽﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ全国大会
優良取組部門 特別賞 受賞

～お問い合わせ先～

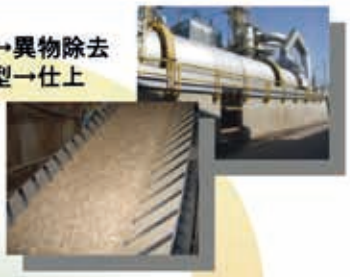
ごみやさん ゴ～
0120-5383-50
URL：http://www.eco-hiruma.co.jp/

廃木材よ…再びよみがえれ！！

廃木材には「マテリアルリサイクル」により与えられる使命がまだあります。

廃木材

破砕→異物除去
→成型→仕上



不要となった
E・V・Aボードは
再び原材料として使用

東京ボードグループ マテリアルリサイクル システム

置き床・家具等
に使用

パーティクルボード
「E・V・Aボード」

廃木材の利活用、このままでいいのでしょうか？

現在、廃木材の利活用について議論される際に、常に話題の中心になるのがバイオマス発電を中心とした「エネルギー利用」です。再利用することが出来ない廃棄物をエネルギーに還元することは非常に有効な活用法であると言えます。

しかし、「エネルギー利用」する前に、今一度考え直して下さい。

その廃木材は「マテリアルリサイクル」が出来るのではないでしょうか？
私達東京ボードグループは皆様とともに「マテリアルリサイクル」の手助けをさせていただきます。
そして共にCO_2削減を図り、地球環境をより良いものへと改善していきましょう！
木々に永遠の命を与えたい…。それが東京ボードグループの使命です！！

私達は
地球温暖化防止に
全力で取り組みます

東京ボード工業株式会社
本社　〒136-0082　東京都江東区新木場2-11-1　TEL:03-3522-4138　FAX:03-3522-4137
新木場工場　〒136-0082　東京都江東区新木場2-12-5　TEL:03-3522-1524　FAX:03-3522-1525
埼玉工場　〒340-0835　埼玉県八潮市浮塚100番地　TEL:048-996-4541　FAX:048-996-4562
横浜エコロジー株式会社
〒236-0003　神奈川県横浜市金沢区幸浦1-4-2　TEL:045-778-1153　FAX:045-778-1154
ティー・ビー・ロジスティックス株式会社
〒340-0835　埼玉県八潮市浮塚100番地　TEL:048-994-1311　FAX:048-994-1315
TB関西物流株式会社
〒630-8452　奈良県奈良市北之庄西町1-6-11　TEL:0742-50-6222　FAX:0742-50-6667